



知床科学委員会 しんぶん



海域ワーキンググループ

No.14



「海域ワーキンググループ」では、知床の海の生き物、漁業やレクリエーションなどの活動に関して、科学的な視点から評価と検討を行っています。

令和6（2024）年度の活動内容

知床世界自然遺産地域の海域の保全に向けて、令和6（2024）年度は会合を2回開催しました。

第1回 令和6（2024）年8月23日 羅臼町

第2回 令和7（2025）年2月17日 札幌市

<主な内容>

○第45回世界遺産委員会決議に係る対応について

世界遺産委員会で指摘のあったトドや海鳥の管理方針などについて検討を行い、世界遺産センターに保全状況報告書を提出しました。

※世界遺産委員会とは

世界遺産に関する登録や審議を行うユネスコ（国連教育科学文化機関）の機関。条約締結国21ヶ国の代表から構成されており、事務局はフランスのパリにある世界遺産センター。

【主な報告内容】

- ・トドの管理について
2024年にトド管理基本方針を改定。この方針のもとで、個体群毎の動態モデルを開発し、順応的に管理を行う。
- ・海鳥の管理について
ウミウ、ウミネコ、オオセグロカモメ等の海鳥のモニタリングを継続するとともに減少原因を推定する。

知床の海をみ～んなで
守っていこう！



退任の挨拶

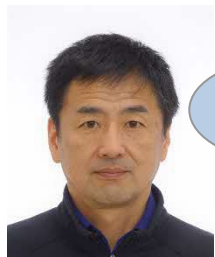


みつでら ふみお

三寺 史夫 北海道大学低温科学研究所 教授

委員在任中は大変お世話になりました。在任中に、環境省や道庁の皆様のサポートのおかげで、知床をはじめとする北海道周辺の海水変動予測を発表することができました。海水の急激な減少が予測され、驚いております。しかしながら、21世紀後半にカーボンニュートラルが実現すると、海水は知床まで毎年到達するとも予測されました。知床の遺産価値である「海水を起点とした陸域生態系と海域生態系の相互作用」の保全は、私たち個々の取り組みとも密接に結びついていることを実感しております。

新委員の紹介



委員の
西岡です



にしおか じゅん

西岡 純 北海道大学低温科学研究所
附属環オホーツク観測研究センター

私の専門は化学海洋学で、オホーツク海の流氷が生み出す
栄養物質の循環と海洋生態系の関係を研究しています。

この度、海域WGにお世話になる
ことになりました。多くの皆さんが
よくご存知の通り、知床周辺の海に
は毎年冬になると東サハリン海流に
のって海水（流水）が押し寄せてき
ます。この海水そのものの広がりや、
海水が作り出す海の中の循環によっ
て、鉄分や栄養塩などが運ばれます。
これらの栄養物質は南部オホーツク
海の生態系と密接に結びついていま
す。私は、気候変動の影響で起こっ
ている海水の生産量の変化が今後ど
のように生態系の変化に現れるのか
を、科学的な知見をもって注視して
いきたいと思っています。

～知床海域の今～

7月に開催されたIUCN世界遺産委員会で採択された保全状況報告書では、
昨年より根室海峡域を含めて新たに始動したトド採捕の管理方針に関して一
定の評価を得ることができ、胸をなで下ろしているところです。一方、遺産海
域周辺は依然として高水温傾向にあり、特に羅臼では2017年以降の漁獲低
迷が続いていることから注視が必要です。

やまむら おりお

（海域WG座長：山村 織生）



会議の内容をもっと知りたい方はこちら
知床データセンター

<https://shiretokodata-center.env.go.jp/>

これまでのモニタリング結果や、会合での
資料などもご覧いただくことができます。

登録前の2004年から知床科学委員会
にかかわってまいりました。世界遺産海域に漁
場があり、漁業者の自主的禁漁区拡大が評
価されて登録された経緯があります。
今でも、欧米から知床に学びたいと研究者
が訪ねてきます。水産生物レッドリストの
委員、水産庁のトド管理方針、環境省のゼ
ニガタアザラシの管理でも、利用と保全の
調和を図るよう努めています。



委員の
松田です

まつだ ひろゆき

松田 裕之
横浜国立大学
総合学術高等研究院
上席特別教授

利用と保全の調和を図るため、水
産資源管理とユネスコ「人間と生
物圏」計画などを研究しています。

◆お問い合わせ先◆

北海道環境生活部
自然環境局自然環境課
〒060-8588

札幌市中央区北3条西6丁目

電話 011-231-4111（代）

＜令和7年（2025年）8月発行＞